東北大学附属図書館　漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト

漱石の肉筆を後世へ！

東北大学

文豪・夏目漱石の自筆資料および旧蔵書からなる『漱石文庫』。
それは、漱石の創作過程を知ることができる第一級の資料です。

――――しかし没後100年を過ぎ、劣化が進行。

漱石の肉筆を未来につなげるため、力をお貸しください。

漱石文庫書架

肖像：県立神奈川近代文学館所蔵

最新技術によるデジタル化を行い
インターネット上に公開することで、
「利用しやすさ」と
「原資料の保存」の両立を目指します。

その実現のため、
クラウドファンディング で
寄付を募集いたします。

ご支援を
お待ちしております。

受付期間　2019.11.5 ～ 12.26

プロジェクト詳細　https://readyfor.jp/projects/soseki-library
または **「漱石文庫デジタルアーカイブプロジェクト」** で検索

館長からのメッセージ

2019年は、漱石という号が初めて用いられてからちょうど130年になります。

私たち東北大学附属図書館は、国宝を含む数多くの貴重な資料を継承し、教育、研究、そして社会へと供してまいりましたが、その中でも「漱石文庫」は第一級の資料です。文豪夏目漱石自身が書き留めた日記や手帳、原稿、ノート、試験問題、手紙。愛蔵した約3000冊の蔵書にも多くの書き込みがあり、漱石の知的な関心や思索の過程、生活ぶりが残された肉筆から生き生きと浮かび上がってきます。明治から大正の激動の時代に、西洋と東洋、英文学と和漢の文学との間で葛藤し、格闘しながら遺した数々の作品。それが生み出されたプロセスを知る手掛かりがここに残されています。

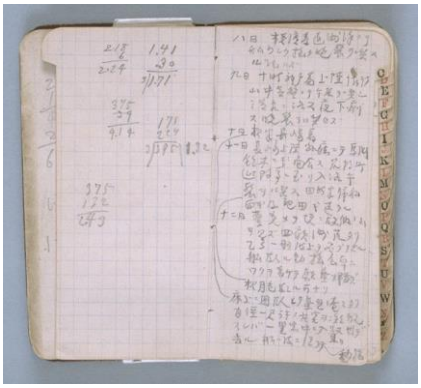
しかしそのオリジナルの資料を見て気づくのは、保存と公開のバランスの難しさです。例えば漱石が渡英した際の手帳は薄い鉛筆書きで、装丁も紙質も決して良いものではなく、今にも壊れて失われてしまいそうな恐れを抱きました。このままで漱石を後世へと遺せるのでしょうか？

そこで私たちは保存と公開の両立のために、漱石文庫のデジタルアーカイブ化によるインターネットでの公開、という道を選びました。漱石文庫の肉筆を高精細の画像で広く一般に公開し、原資料へのアクセスはできるだけ抑えるという方針です。しかし、残念ながらその費用を附属図書館の限られた予算の中から捻出するのは困難な状況にあります。

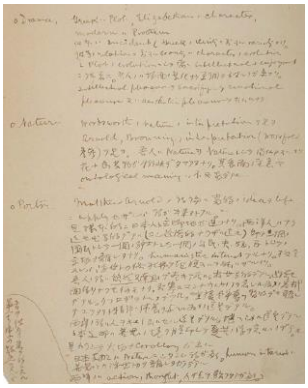
「漱石文庫」を大切に守りながら、漱石の肉筆をインターネットを介して、みなさまの手許にお届けする、そのためのご支援をぜひ、お願いいたします。

東北大学附属図書館長　大隅典子

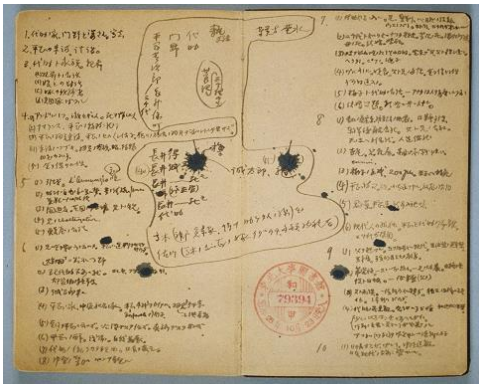
東北大学漱石文庫　自筆資料より



渡航日記



東西文学ノ違



「それから」構想メモ

お問い合わせ：東北大学附属図書館情報サービス課学習支援係
Tel：022-795-5933　Mail： gakushi@grp.tohoku.ac.jp